

Symposium. Kyoto. Nov.

- 19) 高木智充, 坂本吉正, 儀武路雄, 松村洋高, 井上天宏, 中村 賢, 坂東 興, 橋本和弘. (一般演題 (口演) 28: 人工弁 (弁機能)) 狭小弁輪を伴う高齢者大動脈弁狭窄症における人工弁選択. 第53回日本人工臓器学会総会. 東京. 11月.
- 20) 儀武路雄, 坂東 興, 坂本吉正, 松村洋高, 井上天宏, 木ノ内勝士, 中村 賢, 高木智充, 橋本和弘. (ポスターセッション: 弁膜症 11) 弁周囲逆流のため再手術が必要となった症例とその術式の検討. 第46回日本心臓血管外科学会学術総会. 名古屋. 2月

IV. 著 書

- 野村耕司. 第1章: 心臓のはたらき. 橋本和弘編. 心臓血管外科手術器械出し・外回り完全マニュアル (オペナーシング 2016 年春季増刊). 大阪: メディカ出版, 2016. p.10-5.
- 田口真吾. 第3章: 弁膜疾患への手術 A. 僧帽弁形成術, B. 僧帽弁置換術, C. 大動脈弁置換術. 橋本和弘編. 心臓血管外科手術器械出し・外回り完全マニュアル (オペナーシング 2016 年春季増刊). 大阪: メディカ出版, 2016. p.60-87.
- 川田典靖. 第3章: 弁膜疾患への手術 D. メイズ手術, E. 三尖弁形成術. 橋本和弘編. 心臓血管外科手術器械出し・外回り完全マニュアル (オペナーシング 2016 年春季増刊). 大阪: メディカ出版, 2016. p.88-101.
- 長沼宏邦. 第5章: 大動脈疾患への手術 A. 大動脈基部再建術, B. 上行大動脈置換術, C. 弓部大動脈置換術. 橋本和弘編. 心臓血管外科手術器械出し・外回り完全マニュアル (オペナーシング 2016 年春季増刊). 大阪: メディカ出版, 2016. p.132-58.
- 黄 義浩. 第6章: 先天性心疾患への手術 D. 房室中隔欠損症への手術, E. ファロー四徴症への手術, F. 体肺動脈短絡術. 橋本和弘編. 心臓血管外科手術器械出し・外回り完全マニュアル (オペナーシング 2016 年春季増刊). 大阪: メディカ出版, 2016. p.223-49.

産婦人科学講座

教授: 岡本 愛光	婦人科腫瘍学
教授: 落合 和彦	婦人科腫瘍学
教授: 磯西 成治	婦人科腫瘍学
教授: 新美 茂樹 (特任)	婦人科腫瘍学
准教授: 高野 浩邦	婦人科腫瘍学
准教授: 山田 恭輔	婦人科腫瘍学
准教授: 佐村 修	周産期学・遺伝学
講師: 杉本 公平	生殖内分泌
講師: 田部 宏	婦人科腫瘍学
講師: 矢内原 臨	婦人科腫瘍学
講師: 斎藤 元章	婦人科腫瘍学
講師: 上田 和	婦人科腫瘍学

教育・研究概要

I. 婦人科腫瘍学

1. ARID1A 変異がん特異的に有効な阻害剤の探索

近年の次世代シーケンサーを用いたゲノム網羅的解析で、卵巣がんなど多くのがんで、ARID1A, BRG1, ARID2 などの SWI/SNF クロマチン制御遺伝子の失活変異が高頻度に生じていることが明らかとなった。SWI/SNF 複合体は、転写・DNA 複製・DNA 修復の調節をするクロマチン制御関連遺伝子であり、その不活性化はがん化の原因と考えられている。ARID1A は、SWI/SNF クロマチン制御遺伝子のサブユニットのひとつで、多くのがん種で高頻度に変異を認めている。そこで、本研究では、ARID1A 変異がんの治療標的の探索を目指し解析を行った。ARID1A 遺伝子人工ノックアウト細胞と親細胞に対して、標的分子が解明している化合物ライブラリーを用いて網羅的なスクリーニングを行った。その結果、ARID1A 遺伝子人工ノックアウト細胞に特異的に有効な阻害剤を同定した。この候補薬剤は、ARID1A 変異がんの治療候補として期待でき、今後更なる解析を行う予定である。

2. 卵巣がんにおける新規非侵襲診断法の確立

卵巣明細胞腺癌 (CCC) 患者の ctDNA および子宮頸部・内膜細胞診 (pap smear) を用い、遺伝子の増幅や、変異といった質的变化を調べることによる非侵襲性診断法の確立を試みた。本研究では ctDNA 及び pap smear を使用し、デジタル PCR (ddPCR) で遺伝子の増幅及び変異を検索した。ctDNA 及び pap smear から遺伝子異常の簡便な検

出方法を確立することで、CCCの早期発見、悪性度もしくは予後の予測が期待されるだけでなく、他の組織型や癌種の非侵襲診断への応用が可能であることが示唆された。

3. I期卵巣明細胞癌における予後因子の探索:

IL-6, ARID1A 発現の臨床病理学的検討

IC2, IC3期の更なる予後改善を目指して、CCCの発癌過程に寄与するIL-6, ARID1A発現の臨床病理学的検討を中心に、I期CCCにおける予後因子を明らかにすることを目的とした。I期CCC 192例を対象に、年齢、CA125, CRP, 腹水細胞診, 被膜破綻, 臨床進行期, IL-6, ARID1A, 子宮内膜症の有無, CCCの細胞形態及び組織構築などの臨床病理学的因子から予後因子を抽出した。IL-6, ARID1Aの発現変化は手術検体を用いて免疫組織染色法により解析した。I期CCC 192例において、CA125高値, 自然被膜破綻, IC2/IC3期, IL-6高発現(27%) (Overall survival, $p=0.043$; Progression-free survival, $p=0.02$)は予後不良因子であった。104例(54%)でARID1Aの発現が消失し、予後との相関を認めなかったが、自然被膜破綻, IC2/IC3期, 腹水細胞診陽性例で有意に発現消失が増加した($p=0.027, 0.001, 0.016$)。IL-6高発現とARID1A発現消失には相関を認めなかった。IL-6はI期CCCの予後予測に有用で、分子標的治療のターゲットとなり得ることが示唆された。ARID1Aの機能喪失はCCCの初期発癌過程並びに腫瘍の進展に関与する可能性が考えられる。

4. 卵巣顆粒膜細胞腫におけるFOXL2変異の機能探索

卵巣顆粒膜細胞腫は精索間質性境界悪性腫瘍に分類され、悪性卵巣腫瘍の約2~5%を占める。病理組織学的には95%の成人型(aGCTs)と5%の若年型に分類され、臨床的に90%の症例がstage I~IIで診断され95%の5年生存率を示す一方で、III~IV期の5年生存率は59%である。また約30%の症例において初回手術の4~7年後に再発し、再発に対する手術以外の有効な治療法は確立されていない。2009年にaGCTsの90%以上でFOXL2遺伝子の片側アレルの402番塩基にC→Gの体細胞性変異を認める事が報告され、有望なdriver mutationとして注目されているが、その機能は明らかでない。我々はこの変異特異的に増殖抑制を示す薬剤を同定するために変異または野生型FOXL2遺伝子を導入可能な顆粒膜細胞株を用いた薬剤screeningを行い、腫瘍増殖におけるTGF- β 経路の関与を同定した。また、再発におけるFOXL2変異の機能を同定する

ため同一患者の初発と再発腫瘍のDNAを比較し、再発までの期間が短い症例においてFOXL2遺伝子のcopy numberが変化している事を見出した。

5. 卵巣癌の早期診断・予後予測・分子治療を目指した包括的癌関連microRNA解析

卵巣の漿液性癌及び明細胞癌を対象とした癌関連miRNAの網羅的発現解析を基盤として、卵巣癌の早期診断・予後予測・分子治療を目指すことを目的とした。先行研究である網羅的発現解析により、卵巣癌の組織型を特徴づける発現プロファイルを見いだした。特に、2つの組織型において有意に発現の異なる5つのmiRNAを同定した。なかでもmiR-9は卵巣明細胞癌において有意に高発現であった。細胞株を用いたmiR-9の発現抑制による検討から、miR-9はE-cadherinをターゲットとし上皮間葉転換に関与している可能性が示唆された。以上のことからmiR-9が卵巣明細胞癌における新たな治療戦略となりうる可能性が示唆された。

II. 周産期母子医学

1. 正常二倍体だが反復する胞状奇胎に観察される母由来アレルのDNAメチル化異常とNLRP7遺伝子変異

反復胞状奇胎はmaternally methylated DMRsのみDNAメチル化異常を有し、領域特異的DNAメチル化制御機構の解明の端緒となりうる。本研究では、本邦ではじめて日本人孤発性RHMのゲノム・エピゲノム解析を行い、その特徴を明らかにした。

2. Villitis of unknown etiology (VUE)におけるperforin/granzyme pathway・C5b-9を介した絨毛障害機序

VUEは既知の感染症を認めず、絨毛にリンパ球浸潤を認める病態である。VUEは胎児・胎盤発育不全の誘引となる重要な病態だが、VUE胎盤における絨毛細胞障害機序は不明な点が多い。免疫組織学的検討により、VUE胎盤における絨毛内細胞アポトーシス機序を明らかにするとともに、VUE胎盤における絨毛内マクロファージの役割を明らかにした。

3. 自己羊水由来iPS細胞を用いた脊髄髄膜瘤の胎児細胞治療法の開発

脊髄髄膜瘤は神経管の閉鎖障害に起因する先天奇形であり、脊髄が羊水中に暴露され不可逆的神経障害が生じる。神経欠損部に対するより低侵襲な治療の開発が望まれている中、我々は羊水からiPS細胞を樹立し、皮膚系列への分化誘導を行うことで、低侵襲に移植できるbiomaterialを作製し、その有効

性を検討している。

現在、ダウン症候群と双胎間輸血症候群のいずれの羊水からも初代培養が可能であり、効率的に iPS 細胞を樹立できた。この iPS 細胞は未分化マーカーを発現し、in vitro と in vivo で分化多能性を有していた。羊水由来 iPS 細胞は我々の開発した分化誘導法によって、従来の方法と比較してより効率的かつ早期にケラチノサイトへ分化誘導された。三次元培養によって積層化したケラチノサイトは KRT14 や P63 等の表皮マーカーを発現していた。三次元培養を行った表皮を移植した脊髄髄膜瘤ラット胎仔では、皮膚欠損部の大きさは治療しない群と比較して有意差を認めなかったが、移植した培養表皮は生後残存し、欠損部を覆っていた。

4. 網羅的一塩基多型解析による日本人原因不明流産の遺伝学的解析

これまで原因不明とされた日本人集団の反復流産症例に対してより微細な遺伝学的背景の検討を行い、その原因となりうるような未知の遺伝学的素因の有無を検証する。

5. 妊娠女性末梢血中 cell free DNA を用いた性別および Rh 血液型の出生前診断手法の確立

妊娠女性末梢血の血清中に存在する胎児由来の cell free DNA から、胎児の性別、Rh 血液型の診断手法の開発及びその臨床応用の可能性を見出すとともに、他疾患の出生前診断への応用を目的とする。

Ⅲ. 生殖内分泌学

1. マウス卵巣組織の保存時間が妊孕能に与える影響の検証：臨床応用に向けた卵巣組織輸送の基礎的実験

欧州では卵巣組織凍結の際、摘出卵巣は氷上で一晩かけて凍結可能な施設へ輸送されることが多いが、卵巣の保存条件を妊孕能で評価した基礎実験の報告はない。本研究ではマウス卵巣を用いて保存時間が妊孕能に与える影響を検証した。マウス卵巣を摘出後、4 時間、8 時間、24 時間と保存をしたのち同所移植を行い、体外受精・胚移植法にて評価検討した。その結果、マウスにおいて卵巣組織の保存時間の延長は妊孕能を低下させることが証明され、卵巣組織凍結の際は卵巣摘出直後に同じ施設で凍結するか、あるいは卵巣の輸送時間を極力短時間とすることが望ましい事実が明らかとなった。

2. 日本のがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築

若年がん患者の妊孕性温存を目指すがん・生殖医療での意思決定を支えるための心理社会的支援体

制の構築が求められている。Northwestern 大学で医療職へのインタビュー調査を行った。Patient Navigator (PN) はがん治療医から患者の紹介先として明確にされており、がん・生殖医療の初期説明を患者に行う。妊孕性温存療法を受ける患者は心理士のカウンセリングを受ける。PN は患者とコンタクトをとり、心理士と患者の情報を共有する。必要に応じて心理士はカウンセリングを行う。日本の体制構築にとっては日本生殖心理学会が養成している心理職などが重要であると再認識された。

がん・生殖医療の意思決定ツールとして活用されている Decision-Trees の日本での有用性を当院のデータをもとに検討した結果、卵子などの donation, 特別養子縁組の普及などの社会的整備が必要であることが明らかになった。

「点検・評価」

産婦人科学の 3 本柱である、婦人科腫瘍学、周産期母子医学、そして生殖内分泌学の分野を主な研究対象としている。個々の内容をみると、婦人科腫瘍学の分野では卵巣癌を対象とした研究が幅広く行われている。以前より盛んに研究されている分子生物学的解析に加え、より実地臨床に主眼を置いた臨床研究も行われている。周産期母子医学では、iPS 細胞を用い治療法の開発研究をはじめ、周産期遺伝に関する研究、また習慣性流産に関する病態を詳しく解析している。

生殖内分泌学の分野では、がん生殖医療における卵巣凍結に関する基礎研究や、心理社会的支援体制の構築に関する研究を行っている。国際学会でも多くの発表がなされ、大学院生やレジデントの活躍も著しい。これからの進展が楽しみである。多忙な臨床医療の中、国内外で評価される研究を遂行している講座員の努力には敬意を表すが、さらに積極的な論文執筆への姿勢を求めたい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Takenaka M, Saito M¹⁾, Iwakawa R¹⁾, Yanaihara N, Saito M, Kato M¹⁾, Ichikawa H¹⁾, Shibata T¹⁾, Yokota J¹⁾, Okamoto A, Kohno T¹⁾ (¹Natl Cancer Ctr Res Inst). Profiling of actionable gene alterations in ovarian cancer by targeted deep sequencing. Int J Oncol 2015; 46(6): 2389-98.
- 2) Kamoshita K, Okamoto N¹⁾, Nakajima M¹⁾, Haino T, Sugimoto K, Okamoto A, Sugishita Y¹⁾, Suzuki N¹⁾ (¹St. Marianna Univ). Investigation of in vitro

- parameters and fertility of mouse ovary after storage at an optimal temperature and duration for transportation. *Hum Reprod* 2016; 31(4): 774-81. Epub 2016 Feb 22.
- 3) Ito Y, Maehara K¹⁾, Kaneki E²⁾, Matsuoka K (Natl Ctr Child Health Development), Sugahara N¹⁾, Miyata T¹⁾, Kamura H¹⁾, Yamaguchi Y¹⁾, Kono A¹⁾, Nakabayashi K¹⁾, Migita O¹⁾, Higashimoto K³⁾, Soejima H³⁾ (³Saga Univ), Okamoto A, Nakamura H⁴⁾, Kimura T⁴⁾ (⁴Osaka Univ), Wake N²⁾ (²Kyushu Univ), Taniguchi T (Taniguchi Hosp), Hata K¹⁾ (¹Natl Res Inst Child Health Development). Novel nonsense mutation in the NLRP7 gene associated with recurrent hydatidiform mole. *Gynecol Obstet Invest* 2015; 81(4): 353-8. Epub 2015 Nov 26.
 - 4) Ito Y, Matsuoka K¹⁾, Uesato T¹⁾²⁾ (²St. Marianna Univ), Sago H¹⁾, Okamoto A, Nakazawa A¹⁾ (¹Natl Ctr Child Health Development), Hata K (Natl Res Inst Child Health Development). Increased expression of perforin, granzyme B, and C5b-9 in villitis of unknown etiology. *Placenta* 2015; 36(5): 531-7.
 - 5) Nagata C, Tanabe H, Takakura S, Narui C, Saito M, Yanaihara N, Okamoto A. Randomized controlled trial of enoxaparin versus intermittent pneumatic compression for venous thromboembolism prevention in Japanese surgical patients with gynecologic malignancy. *J Obstet Gynaecol Res* 2015; 41(9): 1440-8.
 - 6) Sugimoto K, Nagata C, Hayashi H, Yanagida S, Okamoto A. Use of dienogest over 53 weeks for the treatment of endometriosis. *J Obstet Gynaecol Res* 2015; 41(12): 1921-6.
 - 7) Isonishi S, Noguchi D, Inoue M, Takenaka M, Iikura E, Tanaka K. Ovarian clear cell carcinoma comprising dual components of differential alpha-fetoprotein productivity and drug sensitivity. *International Cancer Conference Journal* 2015; 4(4): 225-8.
 - 8) Tanuma A, Tachimoto-Kawaguchi R, Yanagisawa H, Tanaka T, Yanaihara N, Okamoto A. Prenatal imaging and pathology of placental mesenchymal dysplasia: a report of three cases. *Case report in perinatal medicine* 2016; 5(1): 9-14.
 - 9) Umezawa T, Umemori M, Horiguchi A, Nomura K, Takahashi H, Yamada K, Ochiai K, Okamoto A, Ikegami M, Sawabe M (Tokyo Med Dent Univ). Cytological variations and typical diagnostic features of endocervical adenocarcinoma in situ: a retrospective study of 74 cases. *CytoJournal* 2015; 12: 8.
 - 10) 大和田彬子, 高野浩邦, 小田嶋俊, 田中昌哉, 秋山由佳, 齊藤三和, 山下修位, 宇田川治彦, 駒崎裕美, 鈴木二郎, 鈴木美智子, 江澤正浩, 小曾根浩一, 田部宏, 佐々木寛, 金綱友木子, 岡本愛光. 子宮原発 Perivascular epithelioid cell tumor の一例. *関東連産婦会誌* 2015; 52(4): 727-31.
 - 11) 大野田章代, 川畑絢子, 津田明奈, 廣瀬 宗, 中島恵子, 松野香苗, 高橋一彰, 永田知映, 上田 和, 斎藤元章, 矢内原臨, 山田恭輔, 清川貴子, 岡本愛光. 卵巢原発腹膜偽粘液腫の2例. *関東連産婦会誌* 2016; 53(1): 59-67.
 - 12) 笠原佑太, 飯田泰志, 永吉陽子, 中島恵子, 鈴木佳世, 川畑絢子, 上田 和, 斎藤元章, 矢内原臨, 山田恭輔, 岡本愛光. 胚細胞腫瘍を合併した 46,XY Disorders of Sex Development の2例. *関東連産婦会誌* 2015; 52(4): 655-61.
 - 13) 田畑潤哉, 上田 和, 永吉陽子, 黒田高史, 松野香苗, 川畑絢子, 嘉屋隆介, 飯田泰志, 齊藤元章, 矢内原臨, 山田恭輔, 岡本愛光. 胸腔鏡同時手術により診断・治療しえた横隔膜交通症. *東京産婦会誌* 2016; 65(1): 82-8.
 - 14) 黒田 浩, 磯西成治, 丹羽悠梨子, 山村菜実, 大和田彬子, 白石絵莉子, 野口大斗, 井上桃子, 竹中将貴, 飯倉絵理, 田中邦治. 子宮縫合モデルによるトレーニング下で施行する腹腔鏡下子宮筋腫核出術の4例. *東京産婦会誌* 2015; 64(2): 260-264.
 - 15) 小田嶋俊, 種元智洋, 小西晶子, 鈴木瑛太郎, 笠井章代, 吉居絵理, 田沼有希子, 嘉屋隆介, 上出泰山, 青木宏明, 佐村 修, 大浦訓章, 岡本愛光. 出生前に診断した胎児頭蓋内出血の1例. *東京産婦会誌* 2015; 64(3): 526-531.
 - 16) 片倉和香子, 拝野貴之, 大野田晋, 鴨下桂子, 山本瑠伊, 加藤淳子, 杉本公平, 岡本愛光. 乳癌に対する化学療法および片側付属器切除術後の早発卵巣不全に対しホルモン療法を施行し生児を得た1例. *東京産婦会誌* 2015; 64(4): 612-6.
 - 17) 黒田 浩, 磯西成治, 武藤美紀, 田中昌哉, 後藤ひろ, 佐藤琢磨, 大和田彬子, 野口大斗, 鳴井千景, 田中邦治. 腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術において偶発的に診断した右卵巣・卵管欠損の1例. *東京産婦会誌* 2016; 65(1): 113-7.
 - 18) 村嶋麻帆, 飯田泰志, 大和田彬子, 田畑潤哉, 黒田高史, 山村倫啓, 宇田川治彦, 松井仁志, 鈴木二郎, 鈴木美智子, 森本恵爾, 小曾根浩一, 田部 宏, 高野浩邦, 佐々木寛, 岡本愛光. 妊娠後期に発症した劇症1型糖尿病の1例. *千葉産婦会誌* 2015; 9(1): 11-4.
 - 19) 飯田泰志, 上田 和, 田畑潤哉, 黒田高史, 永吉陽子, 鳴井千景, 丸田剛徳, 川畑絢子, 嘉屋隆介, 關壽之, 矢内原臨, 岡本愛光. 腹腔鏡下子宮体癌根治術後の病理組織検査で卵巣癌が発見された重複癌の1例.

日産婦人視鏡会誌 2016; 31(2): 455-9.

- 20) 佐藤琢磨, 拝野貴之, 稲川早苗, 笠原佑太, 齊藤三和, 大野田晋, 鴨下桂子, 山本瑠伊, 加藤淳子, 川口里恵, 杉本公平, 岡本愛光. 当院生殖外来への乳がん患者診察依頼状況についての検討. 日受精着床会誌 2015; 32(2): 253-6.
- 21) 坂本 優, 菊地 盤, 森本恵爾, 山口乃里子, 三宅清彦, 上田 和, 田中忠夫, 岡本愛光. 全腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH) における子宮マニピュレーター・トータルの使用経験. 日内視鏡外会誌 2015; 20(7): OS285-1.
- 22) 杉本公平, 稲川早苗, 鴨下桂子, 拝野貴之, 岡本愛光. 「がん・生殖」の連携と協働を考えるがん・生殖医療における精神的サポート体制構築の取り組み. 日不妊カウンセリング会誌 2015; 14(2): 139-42.
- 23) 稲川早苗, 杉本公平, 大野田晋, 拝野貴之, 岡本愛光. がん・生殖医療の精神的サポートにおける医師・看護師の連携体制について. 日不妊カウンセリング会誌 2015; 14(2): 173-7.
- 24) 遠藤浅香¹⁾, 能代 究¹⁾, 井平 圭¹⁾, 宇田智浩¹⁾, 中谷真紀子¹⁾, 工藤正尊¹⁾, 櫻木範明¹⁾ (¹⁾北海道大). 子宮内膜骨化生 (EOM; endometrial osseous metaplasia) により続発性不妊症を来した1例. 北海道産婦会誌 2015; 59(1): 108-13.

II. 総 説

- 1) 杉本公平, 稲川早苗, 鴨下桂子, 拝野貴之, 岡本愛光. 【がん・生殖医療の連携体制構築へ向けてーいま, 私たちにできることー】がん・生殖医療における精神的サポートでの連携. 産婦の実際 2015; 64(8): 1047-51.
- 2) 杉本公平, 岡本愛光. シリーズで学ぶ最新知識 産婦人科における心理的ケア 生殖医療での精神的サポート. 産婦の実際 2015; 64(8): 1063-8.
- 3) 佐村 修. 検査 UPDATE 非侵襲的出生前遺伝学的検査 NIPT. SRL 宝函 2015; 36(3): 4-10.
- 4) 佐村 修. 次世代シーケンシング技術の臨床応用例. アニムス 2016; 21(1): 41-3.
- 5) 江川真希子 (東京医科歯科大), 佐村 修. 出生前診断の現状 母体の血液による診断法と最近の進歩. 東京小児医会報 2015; 34(2): 81-4.

III. 学会発表

- 1) 森川あすか, 斎藤美里, 秋山 徹, 岡本愛光. (ミニワークショップ3: 卵巣がん3 明細胞腺癌) 卵巣がんにおける新規非侵襲診断法の確立. 第67回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4月.
- 2) 矢内原臨, 岡本愛光. (臓器別シンポジウム10: 卵巣がん治療のゲノム個別化を展望する) 卵巣明細胞腺

癌におけるゲノムコピー数・遺伝子発現解析による分子生物学的機構の解明. 第53回日本癌治療学会学術集会. 京都, 10月.

- 3) 鈴木佳世, 齊藤元章, 川畑純子, 鈴木二郎, 飯田泰志, 上田 和, 矢内原臨, 田部 宏, 高野浩邦, 山田恭輔, 磯西成治, 落合和彦, 佐々木寛, 高倉 聡, 岡本愛光. (ミニワークショップ4: 臨床研究・試験2) staging laparotomy で FIGO I 期とした卵巣癌の術後化学療法意義. 第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 盛岡, 8月.
- 4) 田部 宏. (シンポジウム2: part 2 ランチョン招請講演 (共催) 8: Clear cell carcinoma of the ovary~the present and the future) 卵巣明細胞腺癌への治療戦略 (JGOG3017 結果をふまえて). 第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 盛岡, 8月.
- 5) 黒田 浩. (腹腔鏡ハンズオンレクチャー: ドライブボックスと手技別モデルを用いた効果的な縫合トレーニング) 腹腔鏡下子宮筋腫核出術のための子宮縫合モデルの考案. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会. 横浜, 9月.
- 6) 山田恭輔. (シンポジウム4: 婦人科 子宮内膜癌肉腫: 術前診断はどこまで可能か) 臨床. 第35回日本画像医学会. 東京, 2月.
- 7) Okamoto A, Iida Y, Yanaihara N, Tanabe H. (Symposia14: DNA repair mechanisms as potential targets for cancer therapy and diagnosis) Updates on ovarian cancer treatment -Impact of PARP inhibitors-. 第74回日本癌学会学術総会. 名古屋, 10月.
- 8) Aoki H, Samura O, Tsuda A, Kamide T, Tanemoto T, Ooura K, Ashiduka S, Okamoto A. Congenital diaphragmatic hernia complicated with strangulated and disconnected of duodenum from stomach, which showed characteristic prenatal ultrasound findings: a case report. 25th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology. Montreal, Oct.
- 9) Noguchi D, Inoue M, Fukunaga M, Isonisi S. Effect of repeated therapy on long-term survival in malignant peritoneal mesothelioma. ESGO (European Society of Gynaecological Oncology) 2015. Nice, Oct.
- 10) Yanagida S, Anglesio M, Wang Y, Salamanca C, Maines-Bandiera S, Trigo-Gonzalez G, Underhill TM, Morin G, Huntsman DG. High-throughput drug screening of adult-type granulosa cell tumor of the ovary targeting FOXL2 C134W mutation and granulosa cell. FIGO (International Federation of Gynecology and Obstetrics) World Congress 2015. Vancouver, Oct.
- 11) Kawabata A, Kiyokawa T, Yanaihara N, Okamoto A. Loss of BAF250a (ARID1A) expression is associ-

ated with progression of endometriosis-related stage I ovarian clear cell carcinoma. USCAP (United States and Canadian Academy of Pathology) 2016 Annual Meeting, Seattle, Mar.

- 12) Samura O, Sago H (Natl Ctr for Child Health and Development), Sekizawa A (Niigata Univ), Japan NIPT consortium. Nationwide project using next-generation sequencing of cell-free DNA in maternal plasma in Japan: one and a half years of experience. ISPD 2015 (19th International Conference on Prenatal Diagnosis and Therapy). Washington D.C., July.
- 13) Sato T, Matsuoka K, Ito Y, Umehara N, Okamoto A, Sago H. Pathogenesis of twin reversed arterial perfusion sequence is different from that of twin-to-twin transfusion syndrome: clinicopathological assessment of 32 cases of multiple pregnancies with acardia. IFPA (International Federation of Placenta Associations) 2015. Brisbane, Sept.
- 14) Narui C, Tanabe H, Takakura S, Nagayoshi Y, Komasaki H, Maruta T, Inosue M, Takano H, Isonishi S, Ochiai K, Sasaki H, Okamoto A. Platinum re-administration in ovarian cancer patients with carboplatin-associated hypersensitivity reactions. ESGO (European Society of Gynaecological Oncology) 2015. Nice, Oct.
- 15) Suzuki J, Tanabe H, Takano H, Nakashima K, Nagayoshi Y, Komawaki H, Isonishi S, Ochiai K, Sasaki H, Ochiai K, Okamoto A. Retrospective study of Trousseau syndrome in ovarian cancer. ESGO (European Society of Gynaecological Oncology) 2015. Nice, Oct.
- 16) 田川尚美¹⁾, 上出泰山¹⁾, 梅原永能¹⁾, 左合治彦¹⁾ (¹国立成育医療研究センター). (一般演題 Group 164: 多胎) 双胎間輸血症候群 (TTTS) の胎児鏡下吻合血管レーザー焼灼術 (FLP) 後における胎盤病理の検討. 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4 月.
- 17) 永吉陽子, 上田 和, 川畑絢子, 笠原佑太, 斎藤良介, 中島恵子, 鈴木佳世, 大野田晋, 拝野貴之, 矢内原臨, 杉本公平, 岡本愛光. (一般演題 Group 124: 腹腔鏡下手術 6) 樋口式横切割法を応用した Reduced Port Surgery の導入. 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4 月.
- 18) 井上桃子, 飯田泰志, 久田裕恵, 松岡知奈, 平田幸広, 關 壽之, 矢内原臨, 山田恭輔, 磯西成治, 落合和彦, 佐々木寛, 岡本愛光. (一般演題 Group 59: 卵巣腫瘍症例検討 1) 顆粒膜細胞腫 56 例の検討. 第 67 回日本産科婦人科学会学術集会. 横浜, 4 月.
- 19) 嘉屋隆介, 上田 和, 矢内原臨, 中島恵子, 井上桃

子, 丸田剛徳, 鈴木二郎, 斎藤元章, 田部 宏, 山田恭輔, 清川貴子, 岡本愛光. (一般演題 Group 60: 卵巣腫瘍症例検討 2) 卵巣漿液性境界悪性腫瘍に関する臨床病理学的検討. 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4 月.

- 20) 拝野貴之, 樽見 航, 河村和弘, 杉本公平, 岡本愛光, 鈴木 直. (一般演題 Group 79: 生殖医学 1 内分泌) 正常卵巣予備能 (乳癌) 患者と早発卵巣不全患者の卵巣における卵胞局在の相違. 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4 月.

IV. 著 書

- 1) 岡本愛光監修, 佐村 修, 種元智洋監訳, 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座「Williams OBSTETRICS」翻訳委員会訳. ウィリアムス産科学. 原著 24 版. 東京: 南山堂, 2015.